

小平市立花小金井小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

この調査は全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生の学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

●主として「知識」の力を見る国語A、算数A

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

●主として「活用」の力を見る国語B、算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

●主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

国語Aの正答率は全国平均よりも10%程高かった。

国語Bの正答率も全国平均より8%程高かった。

どの観点の問題においても選択式の問題の正答率は高い。

解答の形式が記述式の問題の正答率が低いことが課題である。考えたことを自分の言葉で書き表す力の育成に課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

日常的に文章を書く機会を保证するため、週に一回以上作文の宿題を出し、書くことへの苦手意識を克服できるようにする。また、よく書けている児童の作品を紹介したり、担任が返事を書いたりすることで作文の書き方への理解を深めさせる。説明文の学習では、筆者の書き方の工夫を学べるようにする。さらに、それを活用して実際に書く活動を毎回取り入れる。考えたことを分かりやすく表現する力を付けるために自分の考えをノートに書いたり、友達に伝えたりする時間を1単位時間に必ず設定する。

【算数】

状況の分析

課題

算数Aの正答率は全国平均よりも6%程高かった。観点別にみると図形の領域の正答率が高く、全国平均よりも10%程高かった。

算数Bの正答率も全国平均よりも8%程高かった。特に図形に関わる知識についての正答率が高く、全国平均よりも12%程高かった。

算数Aにおいて、式の意味を問う問題が都平均を下回った。また、算数Bにおいては示された情報を解釈し、条件にあうものを考察する問題が都平均を下回った。問われている事柄の意味を考えることに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

計算の仕方を形式的に理解するのではなく、なぜそうなるのかを考え、深く理解する学習を行っていく。また、抽象的なものを図や数直線で具体化したりして、意味を正確に捉えられるように指導する。

【理科】

状況の分析

理科の正答率は全国平均よりも 5%程高かった。特に自然事象への関心・意欲・態度は全国平均よりも 9%程高かった。

課題

ろ過についての知識と観察・実験の技能に関わる問題の不正解者が多かった。知識と技能を関連付けて理解させる必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

観察・実験にかかわる知識・技能を身につけて適切に観察・実験できるようにする。得られた事実をもとに考察することを通して理解を深めさせていく。全ての単元で観察、実験を取り入れ、体験的に理解を深められるようにする。児童に観察、実験の方法も考えさせることで自力解決への道筋の作り方も指導する。

【質問紙】

状況の分析

算数の授業を楽しく感じ、様々な解法を考えたり、考えを交流させて自分の考えを広げたりすることが好きな児童が多い。一方、自学自習の習慣が身につけていないと自覚している児童が多くいる。

課題

意識の面においては考えることが好きだったり、考えを交流させ合う中で考えを広げることが好きだったりするものの、実際に考えを書いたり伝えたりする力には課題がある。意識と技能の差を埋める必要がある。

自学自習の習慣を意識付ける必要がある。

学校等で取り組む具体的な改善策

学習への意欲が高い児童が多いので、今後意欲を更に広げることができるよう、確かな知識、技能を身につけさせていく必要がある。そのために、家庭学習で毎日漢字と計算の練習を行わせる。また、理科と算数においては東京ベーシックドリルを活用して一人一人の実態の把握をし、必要に応じた個別指導を行うようにする。また、校内研究を通して焦点化・視覚化・共有化を図るなどの授業改善を行う。教室環境の整備や教材の吟味等とあわせて誰にとってもわかりやすい授業づくりをする。自学自習の定着を目指し、国語、社会、理科の学習では単元の学習の計画を立てさせる指導も行う。